

■心敬 僧、連歌師。動乱の世に連歌に専心、連歌論書「ささめごと」で、宗祇はもちろん、芭蕉にまで影響。

しんけい

・・・・・・・・ 1406 = 紀伊国名草郡田井荘で生まれる。

足利義満没・1408 = 2歳：京都に上り、

まもなく、東山清水寺南方の十住心院に入れられ、僧として育てられ始める。

・・・・・・・・ 1415 = 9歳：

比叡山横川での十数年の修行の後、

・・・・・・・・ 1424 = 18歳：

十住心院に戻り、

やがて、その住持となる。同門には高山宗研計・蜷川親当・行助・専順らがいた。

義教籤引將軍1428 = 22歳：

尚氏王統確立1430 = 24歳：この頃から清嚴正徹に師事して和歌・古典を学ぶ。

明貿易回復・1432 = 26歳：將軍足利義教の北野社法楽一日万句の会で連歌界に登場、

・・・・・・・・ 1433 = 27歳：

若年の作風は意欲的なあまり、東常縁から「道の零落」と批難されたが、

生来虚弱の身で、30代は病に苦しまれ続け、

嘉吉の乱・ 1441 = 35歳：

・・・・・・・・ 1442 = 36歳：

大和土一揆・1451 = 45歳：この頃からは、故郷紀伊国と京都舞台に続く畠山家の家督争いに巻き込まれ、

近親者のほとんどを失うなか、連歌の道に打ちこみ、

この頃、後に連歌師の最高峰となった飯尾宗祇が入門、

・・・・・・・・ 1460 = 54歳：

蓮如御文始・1461 = 55歳：*大飢饉で多くの難民が京都に流れ込むのにも、心痛めたか、故郷紀伊国の神社に参籠し、仏道と歌道融合の理論的到達点となる連歌論書「ささめごと」を書き上げる。

・・・・・・・・ 1463 = 57歳：再び、故郷紀伊国の神社に参籠し、「法楽百首和歌」を詠み、自註に仏法の理など記す。

・・・・・・・・ 1464 = 58歳：*戦乱落着して、親交する管領細川勝元が主催した連歌の宴では、宗匠役を務め、ようやく安泰。

・・・・・・・・ 1465 = 59歳：専順・宗祇らと「何人百韻」。

応仁の乱始・1467 = 61歳：伊勢方面に出立、*〈応仁の乱〉が勃発したため、武蔵・相模地方に足を伸ばして終息待つも、

・・・・・・・・ 1469 = 63歳：

帰洛の願い叶わぬまま、

・・・・・・・・ 1475 = 69歳：相模国大山の麓で、没した。

権大僧都。「ひとり言」「私用抄」「心敬僧都百句」。